

宮ノ浦遺跡

第13次発掘調査現地説明会

8月12日（土）に、佐島にある宮ノ浦遺跡において、愛媛大学法文学部考古学研究室と町教育委員会による第13次発掘調査現地説明会が開催されました。



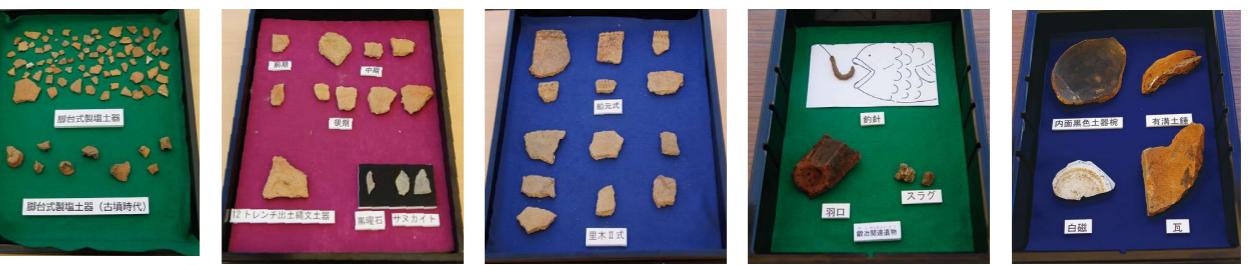
宮ノ浦遺跡第13次発掘調査現地説明会

令和5年8月12日（土）
11:00～12:00 晴れ
上島町弓削佐島 2277番地2 宮ノ浦海岸
参加者40名

第13次となる今年度の調査では、宮ノ浦遺跡の東側に広がる浜堤上に設定した調査区であるⅡ区で、縄文時代の文化層の広がりや旧地形を明らかにすることと、古墳時代・古代（奈良時代～平安時代）の製塩活動の実態を明らかにすることを目的に8月2日（水）から18日（金）まで発掘作業を行いました。

その結果、多くの縄文土器片や製塩土器片などを検出し、当時の人々の生活や環境を復元するための新たな知見を得ることができました。

現地説明会では、参加者の皆さんは発掘調査成果の説明に耳を傾けられ、さまざまな質問や議論が飛び交いました。また、発掘体験では、学生の説明を受けながら、多くの方々に発掘調査の楽しさと奥深さを感じていただきました。



△ 検出した縄文土器片や製塩土器片などの遺物



△発掘体験風景



△発掘調査成果の説明



△熱心に聞き入る参加者

第14回全国離島交流中学生野球大会 - 奄美大島

令和5年8月21日（月）～25日（金）

鹿児島県奄美大島で国土交通大臣杯第14回全国離島交流中学生野球大会（離島甲子園）が行われ、全国の離島（離島甲子園）から9都県、25チームが参加しました。

この大会は、元プロ野球選手で「まさかり投法」により通算215勝された、故 村田兆治氏が引退後、現役時代の経験をもとに、離島球児たちにもっと大きな夢や目標をもたせたいという想いで、離島球児たちにとっての「もうひとつの甲子園」として、「離島中学生野球大会」開催を提唱されたことから実現に至ったもので、地理的環境から島外との交流機会の少ない全国の離島中学生が一堂に会し、野球を通じて「島」と「島」の交流が行われています。上島町からは、岩城中学校野球部12名で構成されたチーム「KAMIJIMA」が出場しました。

トーナメント戦では、長崎県壱岐市の「壱岐市選抜」と対戦し、2-3と残念ながら負けてしまいましたが、交流試合では、開催地鹿児島県奄美市の「奄美市選抜 ガジュマルズ」と対戦し、4-2で見事に勝利しました。この大会では、参加した選手たちが全国の離島の仲間たちと野球をとおして成長する姿を見ることができました。来年開催地予定の長崎県壱岐市では、更なる活躍を期待しています。



▲ 8月18日 全国離島交流館中学生野球大会 出陣式

